

< 大塚のぶお の 芦屋市議会報告 >

フロンティア30の代表で芦屋市議の大塚のぶお氏が7月3日から芦屋市議会の本会議場で3日間行われた「一般質問」のトップで登壇。伊藤新市長はじめ市当局に対し、認知症対策、市職員の手当、選管の「選挙公報」の配布遅延問題などをただしたところ、長年の懸案であった「住居手当」について「見直しに向け協議する」との答弁を引き出すことに成功しました。



質問する大塚氏

19人の議員のトップを切って、初の「一般質問」に臨んだ大塚氏。まず、伊藤新市長に就任への祝意を述べた上で、市としての認知症への取り組みをただしました。認知症への抵抗感がある中で、それを少しでも和らげるためにも国保加入者に毎年一度健診できる胃がんや肺がんと同様に無料で認知症の予防検診を受けられるようにしたらどうかとただしました。

また、高齢化が全国以上に進む芦屋市こそ、神戸市や東京・葛飾区で導入している認知症の予防検診や認知症の方が線路に立ち入るリスクを視野に入れての賠償責任保険に本人に代わり市が負担する制度を導入する考えはないかと問いました。これに対して、市側は、認知症の早期発見のための簡易チェックサイトを活用すべきであり、予防目的のための健診を導入する考えはない、と答弁。また、賠償責任保険に市が認知症の方に代わり負担する制度については、他の自治体の動向を注視しながら全国市長会を通じて国への支援制度の創設を要望していく、との答弁を得ました。

これらの認知症の取り組みの答弁に関して、大塚氏は「伊藤新市長は、投票日直前(4/18)の朝日新聞のインタビューで高齢化対策では『認知症対策に取り組みたい』と述べていたので、彼女の市長としての本気度を試すためにも、また、2025年には高齢者の5人に1人が認知症になる可能性があるという、まさに待ったなしの認知症対策について新市長なりの何らかの施策を打ち出してきてもおかしくなかったが、市長たる言葉は乏しいばかりで完全なる肩透かしに終わった感がある。残念なことだが、このテーマでは今後も継続して粘り強く市側に問うていきたい」と総括しています。



壇上から伊藤新市長に対し
冒頭、就任の祝意を述べる大塚氏

なお、質問の様子は[芦屋市役所 HP](#)→[市議会](#)→[議会中継](#)→[7月3日](#)→[大塚のぶお](#)の動画で視聴可能です！

裏面に続く →

認知症対策に次いで市側に問うたのは、市職員の高給与批判の要因とされる「手当」の問題です。2018年4月1日現在、芦屋市のラスパイレス指数は県内の自治体ではトップの102.0。しかも9年連続トップという不名誉な記録で、政令市である神戸市（101.0）、兵庫県（99.7）よりも高い数字で、これに加えて「地域手当」「住居手当」等が加算される高給与体系となっています。これらの手当は、国に準拠する形で自治体で実施されているが、とりわけ持ち家職員に対する「住居手当」は国が平成21年に廃止し、兵庫県でも平成25年に廃止しており、総務省からは毎年11月に見直しするように県を通じて芦屋市にもその「通知」がくるものの事実上、市当局は、それに従うことなく、市職員への支給を続けているのです。



大塚氏はこれを問題視し、「宝塚市は今年度から廃止、伊丹市でも来年度から廃止。尼崎市は最長3年間に限定し、市内居住者のみを対象とするいわば政策として支給している」と近隣自治体のデータを引用しながら、「このまま年間約3900万円（1人月9900円×336人）という持ち家職員への『住居手当』を支給し続けることは、市職員の高給与体系に疑問を持つ多くの市民に対して納税者としての理解を得られるのか？」とただしたのです。

伊藤市長の答弁は、「見直しに向け協議する」というものでしたので大塚氏の再質問では、この点をしっかりと確認の上、その時期や方法を尋ねるつもりで再度ただそうとしたところ、なんと伊藤市長は首を横に振る、そんなことはしていない、と打ち消すポーズを見せたが、隣に座る佐藤副市長は大きく首を縦に振る動作で、業を煮やしたようにやおら立ち上がり、「見直しに向け協議するとすでに述べています！」との答弁。その後、所管の担当部長も「（組合との交渉という）相手があつてのことで表には出しにくい」と補足はしたが、この手当についての市長答弁をめぐり市当局が一時的にせよ混乱したというのは、議場にいた議員は勿論、傍聴していた市民にも十分見てとれたはず。「伊藤市長の、このような重要な事案での自身の答弁を忘れてしまうという事実は、市長としての資質すらも問われる、驚くべきこと」と大塚氏は述べています。「いずれにしても今まで、議員がこの手当を問題にすることはあつたものの、市当局と組合とが堅いタッグを組み、いわば動かぬ岩盤のような存在だっただけに、この『住居手当』の見直しをするとの答弁は市民の皆さんも納得できる大きな一歩と考えてよいのではないかとその意義深さを強調しています。

フロンティア30代表・大塚のおおプロフィール 連絡先 090-1674-7747

青山学院大学文学部フランス文学科卒 / 岡山県出身の61歳 / 東芦屋町在住
朝日放送アナウンサー / フルブライト奨学生として米国留学（ジャーナリスト・プログラム）
「サンデープロジェクト」田原コーナー ディレクター 等を歴任

今年4月21日の芦屋市議会議員選挙で当選 / 事務所は大原町5-4 ナカノビル2階

フロンティア30 HP : <http://www.nobufr30.com>